保健師最前線

介護保険発足の時も同じような状態でした

京田辺市　奥西　敏恵さん

老健制度発足で多数が採用された昭和五十八年、移り住むようになった旧田辺町(京田辺市)に採用された。

「当時は六、七人のメンバーでしたが、いい先輩にも恵まれて、こどもの発達の勉強会を開くなど、ひたすら前へ進んでいましたね」

それから二十年余、いまでは健康介護課でリーダーの一人として、取りまとめの事務作業が多くなったが、現場で張り切っていた頃が懐かしそうだ。現在は制度改正に伴って来年度からスタートする特定健診の準備などに追われている。国の大きな制度変更の常なのだが、予算編成は秋に期限が切られているのに具体的な中身はわからないことが多い。

「こうなるだろうと準備していて、通達が来て見ると違っていて組み替えをするとか、試行錯誤の連続です。そんなときに保健師のネットワークが役に立つんですよ。問い合わせたりして」

地域や府の保健師協議会を通じて知り合いになった近隣各市の担当者に聞いて得る情報が大いに役に立っているのだという。おまけに介護保険発足のときにも同じような体験をしてきた。

「直接役に立つというわけではありませんが、介護保険にも準備段階から参加して同じような経験をしてきましたから」

笑顔だった。